

基本項目

開講科目名／Course Name (Japanese) 実践グローバルリーダーシップ

サブタイトル／Subtitle 授業運営を通してリーダーシップを学ぶ

開講科目名(英)／Course Name Practicing global leadership

時間割コード／Course Code 311444 (OSIPP) / 220547 (Law) / 020661 (学部)

開講区分(開講学期)／Semester 春夏学期

曜日・時間／Day and Period 金 5 16:20～17:50

講義室／Room OSIPP 棟 講義シアター教室 開講言語／Language of the Course : 日本語

単位数／Credits 2 対象所属／Eligibility 全学年 授業形態／Type of Class 講義科目 (一部集中)

担当教員／Instructor 南部 靖之、南部 真希也、上斗米 明、神余 隆博、野村 美明、西嶋 聡

詳細情報

授業の目的と概要／Course Objective

(目的)

この授業は、グローバルなリーダーシップの習得と向上を目的としています。

リーダーシップは、リーダーとメンバーが、地球の様々な地域で社会の問題の解決のために、相互に影響を与えながら協力して行動していくことです。

この授業では、リーダーシップが様々な役割を総合的に果たして現状を変革(イノベーション)することにあることをふまえ、受講生が「ファシリテーター」「機材係」などの様々な役割をもって授業運営に携わることでリーダーシップの実践を行います。

学生主体の授業です。本年はインターネットを通じた授業が中心となりますが、授業を受けるのではなく授業を創る準備をしてきてください。

(概要)

- ①グローバルな視点からリーダーシップを実践され様々な分野でイノベーションを引き起こしてこられた方々を講師にお招きし、哲学・経験を語っていただきます。
- ②双方向的な対話と振り返りを通して、現代社会が直面している問題とその解決のためのリーダーシップについて考察する機会を持ちます。
- ③発言しやすい環境作りと集中的な練習のために、集中講義として合宿が行われます。(受講生は原則として参加してください)

(実務経験のある教員による授業科目)

グローバルに通用するイノベーションを引き起こすようなリーダーシップはいかにして可能かを NPO やベンチャー企業のトップなどが五感を通じて示す。

(授業形態)

授業時間は原則として金曜の 16:20～17:50 です。16:20～16:30 (準備)、16:30～17:10 (遠隔授業)、17:10～17:40 (Q&A、ディスカッション)、17:40～17:50 (課題提出物) です。

下記授業計画に基づく詳細な講義日程を、GLP ホームページ、に掲示します。なお、授業の一部を 1・2 年生の

授業と共有します。

毎回の授業の最後に、振り返りシートを記載します。

(受講理由書)

シラバスを熟読して、なぜこの授業を受講したいかを記載した受講理由書をメールで提出してください。提出内容は A4 用紙一枚以内(Word ポイント 11)とし、ファイルのヘッダーに提出日 氏名 学番 メールアドレスを表記すること。4 月末日が最終締め切りです。

メールは<glp@osipp.osaka-u.ac.jp>宛、必ず表題に「2020 実践グローバルリーダーシップ(受講者名)」を表記すること。

(合宿について)

日程： 2020 年 7/11 (土) ～ 7/12 (日) 予定 (授業計画参照)

場所： 株式会社パソナグループ様研修施設 (兵庫県淡路島)

参加費・交通費： 無料

〈昨年度の外部講師〉

城口 洋平 (ENECHANGE 株式会社代表取締役会長)

笠 章子 (大塚 HD 常務執行役員)

田村 耕太郎 (国立シンガポール大学大学院兼任教授)

河口 洋一郎 (東京大学元教授・CG アーチスト)

招へい教授 南部 靖之 (株式会社パソナグループ代表取締役グループ代表)

〈受講生の感想〉

他の受講生は、回を追うごとに講師の皆様や日頃の授業から改善点を見出し、実践していて素晴らしいと思った。例えば、全体のために貢献するという意識が高い方が多かったため、とても充実した環境で学べたと思う。受講生の皆さが私自身にとって先生のような存在だったと感じている (国際公共政策学科 3 年)

私がプレゼンで言った仕事を振ることと作業を振ることの違いを、別の人が質問によって深めてくれた。企画を達成するためには作業 (タスク) を振ることも必要だし、使いわけが大切、仕事を振るためには、ビジョンの共有という前提が必要という二つのフィードバックを得られた (国際公共政策学科 4 年)

皆さん自分の役割だけでなく、他人のことまで気をはってくれて、皆さんの成長やビジョンを聞くたびに、私もこのままでいられないと思い、より努力したいと思わせるグループ・メンバーでした。私が気づいていなかったことも誰かの言葉や価値観によって、考えそのものが変わることも多々あり、面白いと思っていた (国際公共政策学科 4 年)

※昨年度の講義日程は以下の URL にて閲覧可能です。

<http://www.osipp.osaka-u.ac.jp/leader/jissen.html>

①授業の企画・運営に携わることによって、リーダーシップを実践的に習得し、向上させることができます。

②様々な分野でリーダーシップを発揮されてきた方々の話を聴くことにより、「リーダーシップとは何か」を具体的に把握できるようになります。

特記事項／Special Note

この授業はグローバルリーダーシップ・プログラム (GLP) の一部です。GLP で開講する科目を続けて受講することで、リーダーシップをよりよく理解し、身につけることができます。

GLP は大学院副専攻/大学院高度副プログラムです。要件を満たせば修了認定書が発行されます。

授業計画／Class Plan

第1回 4月10日 授業説明・オンライン授業入門

第2回 4月17日 ZOOM と CLE 練習

第3回 4月24日 リーダーシップの考え方

第4回 5月8日 阪大講義 (神余 隆博 OSIPP 客員教授、関西学院大学 国連・外交統括センター長)

第5回 5月15日 ミニプレゼンと第1回振り返り

第6回 5月22日 ミニプレゼンとディスカッション

第7回 5月29日 講師1 講義 (ERIC Tsai (CEO of Dynasty Holding International Limited))

第8回 6月5日 講師2 講義 (岡田康裕 (加古川市長))

第9回 6月12日 第2回振り返り

第10回 6月19日 講師3 講義 (山下春幸 (東京ミッドタウン オーナーシェフ))

第11回 6月26日 プレゼン準備

第12回 7月3日 最終授業 プレゼンテーション

第13回・第14回・第15回 7月11日・12日 講師4 講義 (合宿二日間または集中講義)

授業形態／Type of Class

講義科目 (一部集中)

授業外における学習／Independent Study Outside of Class

学習効果を高めるため、グループによる事前の準備、事後の反省と受講者による予習が求められます。

この授業の発展形として、リーダーシップに関する考え方とディスカッションに重点をおいた「リーダーシップを考える」が開講されます。さらなる発展を目指してください。

教科書・教材／Textbooks

「GLP 共通テキスト」

参考文献／Reference

以下の他は、講義中に指示します。

野村美明ブログ <http://nomurakn.blogspot.jp/> =過去の授業の教材や参考資料を掲載しています。「リーダーシップ」で検索してみてください。

マーティ・リンスキー,ロナルド・A・ハイフェッツ/竹中平蔵訳『最前線のリーダーシップ』(ファーストプレス 2007 年)(原著 Ronald A.Heifetz "Leadership on the Line"(Harvard Business School Press, 2002)=共通テキストが引用している本です。

『リーダー・パワー』ジョセフ・S・ナイ(日本経済新聞出版社 2008 年)(原著 Joseph S. Nye, Jr., The Powers to Lead, Oxford, 2008)=共通テキストが引用している本です。

シャロン・ダロツ・パークス/中瀬英樹訳『リーダーシップは教えられる』(ランダムハウス講談社、2007 年)(原著 Sharon Daloz Parks, Leadership Can Be Taught, Harvard Business School Press, 2005).

平田オリザ・蓮行『コミュニケーション力を引き出す』(PHP 研究所、2009 年)

堀公俊『ワークショップ入門』日経文庫 2008 年。プログラムデザインやファシリテーションスキルが学べます。

成績評価/Grading Policy

- ① 受講理由書, ②平常点(役割分担+振り返りシート+自己評価+相互評価), ③学期末レポートに④役割達成度(業務報告、メールのやりとり、プレゼンテーションなど)を加味して、総合的に評価します。
- ・受講理由書の締め切りは 4 月末日です。
 - ・受講理由書と学期末レポート(総合振り返り)の 2 つを提出することによって、受講前後で自分自身にどのような変化が生じたのかを実感できます。

受講生へのメッセージ/Messages to Prospective Students

授業目的に共感し、対話型授業と協働作業に積極的に参加する学生を望みます。

授業担当教員

野村 美明 国際公共政策研究科 nomura@osipp.osaka-u.ac.jp

西嶋 聡 国際公共政策研究科 s-nishijima@osipp.osaka-u.ac.jp